

I 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきれずにきれいに取り除いてください。

マーク例

| |
|-----|
| ① |
| ○ 1 |
| ○ 2 |
| ● 3 |
| ○ 4 |
| ○ 5 |

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

かつて宇宙観が二十世紀と同じほど激変した時代が幾つかあって、その最近の時代が十六世紀である。天動説に代わる地動説のおかげで、人々の空間についての概念は転倒し、カオスに陥った。⁽¹⁾奇妙なことに、この十六世紀は近代における歴史学と批評の初期の体系化が行われた時代である。思想家たちは、このときに近代的な時間の観念も生じたのだといっている。きっと人間は、これは個人の場合にもよく起こることだが、量的な時間のゆるやかな流れの中で堆積した過去を、ある異質な時間を自覚したときに、整理しておこうと思いつるのである。意識の根底に生じた断層が、旧来の価値の体系を疑わせ、ズレの感覚が彼らにそれをアジャストするよう^(注1)にしているのに違いない。それゆえ、危機の時代は常に歴史の書き直しを求めるのだ。

私のように、幼い頃から価値の体系が崩れたり、立て直されたり、また壊れたりしてきたのを見続けた世代の人間は、この絶望感から救われるには、人よりも少しずつ前後に長い時間の意識を持たなければどうして生きてはいけない。私が歴史家になったのは主として絶望感のためである。

ある人々にとつては「過去」はスーパーマーケットの商品のように、より取り見取りの明るいショーケースの中に並んでいるように見え、歴史家はただ手を出しさえすればいいように見えるかもしれない。しかし、たかだかこの五十年の「過去」をふり返ってみても、すでにあまりにも多くのものが見えなくなり、すでに暗黒の中に沈んでしまった、ということがわかるであろう。個人の場合をとつてもいい。だれかごく親しい人間が死んだとして、その死のあとに何が残るだろうか。その人間がいつ生まれたとか死んだとか、幾つで結婚して何人子供がいたとかいうような「記録」は厳然として残るが、その人間を深く知っていればいるほど、それらの「記録」は、本当のことは何一つ告げてはいない。彼が心の中で何を思い、何を愛したかという、本当の彼にとつての「真実」は、もうだれの目にも届かなくなってしまうということがわかる。その人間が日記をつけていたり、「親友」が回想録を書いたりしても、それらの「文献」は、ただ一面の真実を残すにすぎず、書かれなかった、さらに多

義的な真実をかえっていつそう隠蔽し抹殺してしまうという作用をする。私が言葉を第一次資料にしない芸術史を選んだのは幸いだった。言葉のない画面こそ、多義的であるが故に、いつそう包み隠された内面の真実がマイゾウ(1)されている場所だからだ。

私が、これらのことを鋭く感じるのは、私がレオナルドやミケランジェロのように、同時代人によって生前す(注2)でにスウハイ(ロ)されていた芸術家ではなく、同時代人とそれに続く数世代の人間によって低く評価された芸術家や、エポック(注3)を研究しているせいであろう。同時代人によって叩かれた芸術家が、時の流れを生き延びてわれわれのところ(注3)に漂着するのは、とてもむずかしく、おそらく多くの人々が、死んで沈んでしまった。

一九五〇年代に私が、カラヴァッジオの研究を始めたとき、彼の同時代人たちの評価と、二十世紀の五十年代の批評家のそれとが全く対立していることに驚いた。カラヴァッジオが「正当な」扱いを受けるのに、彼の死後のおおよそ三百年の時間のズレが必要だった。それでも彼は があつたからまだいい。いわれない差別に苦しんだ無数の人々、すべてのふさわしい報いを受けなかった有徳の人や天才や不幸な恋人たちの「魂」はどこで救われるのか！ 歴史は大いなる暗闇である。変形され、ときには惨殺された「真実」が累々と横たわっている。そこに行くには、コクトー(注5)の『オルフェ』のように、非常な苦しみを持って時間をさかのぼらなければならぬ。それが深海や宇宙の暗黒となるであろうか？

古代ローマ人は「真理は時の娘」といった。奸計(b)や悪意に襲われた純潔な「真理」を「時」の老人が救い出すといった寓意画は、十六世紀から十七世紀にかけてたくさん描かれた。そのときいつも「希望」という名の娘がそばに立っている。キリスト教関係では、「最後の審判」がすべてのことの決着をつけることになっている。ミケランジェロのシステイナ(ロ)の絵では、天使がラッパを吹いて「時の終わり」を告げることになっている。「時の終わり」を告げる天使のそばには、大きな書物をかかえた別の天使たちが描かれている。その書物には、人の眼には隠されていて、神の眼のみ見えた真実が書き記されている。

同時代人が、さまざまな先入主や偏見によってヴェールをかけた真実を、だれかが取り除かなければならぬ

し、すべてのことはおそかれ早かれ正当な決着をつけなければならぬ、ということとはみんな感じていることである。だが、実際には「時」の老人は翔とんでこないし、キリスト教徒ではない人にはこの世の正当な終わりも訪れない。われわれ自身もまた自分の先入主と偏見を持っている。われわれの歩幅は小さく、見渡す距離もわずかにすぎない。それにもかかわらず、二十世紀西欧の知性は、かつてないほどの、ほとんど自己否定に至るほどの、価値の転換を行ってきた。それは、二十世紀が激変の時代だったからであり、地崩れ、すなわち古い価値の体系の崩壊とその断層が、見えなかったものをはつきりとさせ、われわれ自身にわれわれの世代とのズレを感じさせたからである。幾つもの価値基準がくい違い、ズレを起こし、同時代人に異時代人を感じ、異時代人に同時代人を見いだした。こうして、かつての過ぎた時代に異質であったものや人を、われわれは同時代人として呼びさまさせた。今世紀の歴史学の成果は、宇宙やミクロの世界における成果とけっして無関係ではない。古代人は「時」が過ぎれば真理が見えるといったが、量的で均質な時間の流れは、すべてのものをゆつくりと滅ぼすだけである。必要なことは、^④異質の時間がやってくること、である。

(若桑みどり『レット・イット・ビー』による)

(注) 1 アジャストする——(差異や間違いなどを)調整する。

2 レオナルド——イタリアの画家・彫刻家・建築家レオナルド・ダ・ヴィンチ(一四五二―一五一九)のこと。

3 エポック——時代。ここでは特に美術史上の時期区分を意味する。

4 カラヴァッジオ——イタリアの画家(一五七一―一六一〇)。

5 コクトー——フランスの詩人・作家(一八八九―一九六三)。

問

- (A) 〓 線部イ・ロを漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)
- (B) 〓 線部 a・b の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 〓 線部(1) について。筆者はなぜ「奇妙」というのか。その理由として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 自然の秩序にかんする考え方の深刻な変化が人々の切実な問題であった時代に、逆に人間の営みに関心を抱いて思索しようとした人々がいたから。
 - 2 自然の秩序にかんする考え方は人類の歴史を通じて何度か大きく変化したのに、人間の営みを新たに秩序立てて考えたのが十六世紀だけだから。
 - 3 自然の秩序にかんして崩壊したのが古い空間の概念だったのに対して、人間の営みにかんして崩壊したのが旧来の時間の観念だったから。
 - 4 自然の秩序にかんする考え方が大きく混乱したちょうど同じ時代に、人間の営みにかんする知を新たに秩序立てようとする動きが起こったから。
 - 5 自然の秩序にかんする考え方の変化に人々が深く困惑した時代に、人間の営みについては新たな発想にもとづいて調整することができたから。

(D) 線部(2)について。ここにいう「多義的である」の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 視覚的なイメージは見方によってどのようにも解釈できる。
- 2 芸術史という学問の性格から多くの種類の資料を使う必要がある。
- 3 心の中の本当の思いや感情は一義的には表現することができない。
- 4 隠された唯一の真実に接近する方法は一つだけに限定できない。
- 5 時代の基準で一面的に意味を決定されてしまうことがない。

(E) 空欄 にはどんな言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 友 | 2 名 | 3 息 | 4 時 | 5 技 |
|-----|-----|-----|-----|-----|

(F) 線部(3)について。「実際には「時」の老人は翔んでこない」とはどういうことか。その内容を最もよく説明している一文を本文中から探し出し、初めの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

(G) 線部(4)について。「異質の時間がやってくる」とはどういうことか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 過去の異質なものをよみがえらせて現代風に調整すること。
- 2 従来の価値の体系が崩れ自分の時代に違和感を覚えること。
- 3 「時の終わり」が告げられて隠されていた真実があらわれること。
- 4 空間の概念が転倒するのに伴って時間の観念も変質すること。
- 5 異なる価値観がぶつかりあうことのない安定した時代が訪れること。

- (H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 十六世紀に生まれた新しい時間の観念は、人間を中心とする歴史の書き直しを求めた。
 - ロ 歴史の研究は、価値体系の変転に屈しないものの見方とその変転を活用する術を与えてくれる。
 - ハ 自分の時代の価値基準を疑わずにすむ人は、「過去」も商品のように並んでいると思うかもしれない。
 - ニ 人間が書いた「記録」は一面の真実を残すだけで、多義的な内面の真実は神の眼にしか見えない。
 - ホ 同時代人から低い評価しか与えられなかった芸術家の仕事にこそ、その時代の真実が隠されている。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

アリストテレスはカタルシスという仮説で芸術の弁護をした。人を殺す芝居を見て、なぜ、観客が快感を覚えるのか。現実に行なわれてならないのはいうまでもないが、これが舞台上で行なわれるのを見て人間が美を感じるのとは、われわれ人間の心の中に生ずる有毒なものを演劇という下剤で浄化(カタルシス)するのだと説明した。芝居もレクリエーション、忘却の一形式と考えられる。逆に、忘却もカタルシスにきわめてよく似ている。

机の前にしぼりつけられている勉強家よりも、スポーツマンの方がかえっておもしろい仕事をしたり、いい成績をあげたりすることがあるのも、汗を流して運動するのが、カタルシスとしてすぐれていることを物語っている。スポーツか勉強か二者択一のように考える向きが多いのは、スポーツをしたらあと何もできないほどスポーツに淫することからおこる誤解である。

入浴も気分一新に効果がある。日本人は風呂好きといわれ、イギリスの大学学生寮では日本人を泊めるのはいが、湯の消費が多くなって困るといつてこぼしているそうだが、この高温多湿多雨の風土では入浴は欠かすことのできない衛生法である。だが、ことはそれだけにとどまらない。精神衛生から見ても、ひと風呂浴びて、さっぱりするのは、健康的である。カタルシス効果もきわめて大きい。

しかし、頭にたまっていることをきれいにするには、やはり歩くことも適しているようである。古来、ものを考える人が散策をし^(a)道遥をするのは偶然ではない。京都の東郊、鹿ヶ谷には、哲学の小径というのがある。学者たちが思索をしながら歩いた道としてはすこし足場がわるいし、このごろはひどく荒れたという人もあるが、歩きながら考えるよりも、歩くこと自体に意味がある。

なんとなくまとまらない気持、妙に心にかかること、気になることがあつては、落ち着いてものを読むことも考えることもできない。そんなときは散歩にかきる。

散歩という言葉はぶらりぶらりのそぞろ歩きを連想させるが、それではカタルシスはおこりにくい。相当足早に歩く。はじめのうち頭はさっぱりしていないが、二十分、三十分と歩きつづけていると、霧がはれるように、頭をとりまいていたモヤモヤが消えていく。

それにつれて、近い記憶がうすれて、遠くのことかよみがえってくる。さらに、それもどうでもよくなって、頭は空っぽのような状態になる。散歩のキョクチはこの空白の心理に達することにある。⁽¹⁾心は白紙状態（タブラサ）、文字を消してある黒板のようになる。

思考が始まるのはそれからである。自由な考えが生まれるには、じゃまがあつてはいけない。まず、不要なものを頭の中から排除してかかる。散歩はそのためにもっとも適しているようだ。ぼんやりしているのも、ものを考えるにはなかなかよい状態ということになる。⁽²⁾勤勉な人にものを考えないタイプが多いのは偶然ではない。働きながら考えるのは困難である。歩くのは仕事ではない。だから、心をタブラサにする働きがある。時間を気にしながら考えるのは目的地へ急ぐのでは、歩いても思考の準備にはならない。

ものを考えるには、適当に怠ける必要がある。そのための時間がなくてはならない。

一方、ながら族というのがある。ラジオをききながら勉強する受験生がその走りだったといわれる。そんなに加減な気持で何ができる、集中しなくては、と大人はやかましくいうが、考えてみると、ながら族にも言い分がありそうだ。

タブラサが望ましいには望ましいが、あまり、何もなさすぎるとかえって落ち着かない。勉強するには、静かな方がいいが、静かすぎると、こんどは静かさが気になる。こういう静寂は一種の騒音効果をもつから、それをうつすら抑えてやる方がいい。黒板に文字が多すぎても困るが、そうかといって、全然何もないのもまた不安である。それですこしじゃまを入れておいた方がかえって集中しやすい。製氷するとき水中の気泡を抜かないと、水が白くニゴる。⁽³⁾気泡を抜く必要があるが、そのためには水の中へ逆に空気を送り込む。そうすると、小気泡が空気に吸いとられて透明な氷になる。ながら族のラジオにもいくらかそれに似たところがある。

精神を自由にするには、肉体の一部を拘束して、いくらか不自由にする方がいらしい。中国の宋時代の詩人、歐陽修が三上つまり馬上・枕上・廁上を妙案の浮ぶ場所としてすぐれていると考えたのも、それぞれ、完全に自由にならない立場にあるからだといえそうである。馬上にしても、枕上にしても、トイレの中にしても、ほかにすることとでないが、そうかといつて、別にほかのことをするわけにもいかなない。そういう状況でものを考えるのも、「ながら族」の一種である。歐陽修はながら族の大先輩かもしれない。

われわれは当面のこと、関心のあることに心をひかれる。関心をもつというのは、そのほかのことに心が向かないことで、気にかかる大問題をかかえる人が、ときとして、とんだ失敗をやらかすのは、注意が一点に集中していて、ほか留守になるためである。

したがって、なるべく、⁽³⁾些細なことに関心が向けられていての方が精神の自由には好都合である。三上はそういう状態をつくり出すのに適しているということであろう。

ものごとに執着するのは、心の自由にとって大敵である。人間はどうしても、自分を中心にもものを見、考えがちで、それが関心と呼ばれる。

英語でこの関心のことをインタレスト (interest) というのは面白い。インタレストとは利害関係のあることで、したがって、関心ともつながり、おもしろさ、興味ともかかわってくる。何かに関心をもつというのは、それと利害関係をもつことであつて、精神の自由はそれだけ制約される。いろいろな知識をもっているというのは、さまざまな利害関係でがんじがらめになっていることを意味する。そういう頭脳では自由奔放なことを考えるのは困難であろう。

そこで、自然の、あるいは意識的な、忘却が重要となる。もろもろのインタレストのきずなから解放されるのが忘却で、それには日常性からの離脱が求められる。仕事や勉強だけしては、忘れることが難しく、利害関係の網の目からものがれられない。

⁽⁴⁾三上はささやかな日常性からの遊離である。出家、隱遁、雲水の旅に漂泊するというのは、生涯をかけたカタ

ルシスである。

そうして、心をしばるもろもろの関係を切りおとして、無心の境に達して悟りが生まれ、発見が可能になる。

英語の *disinterestedness* は、公平で⁽¹⁾シシンのない状態の意味だが、インタレストを超越したということである。これが容易に達することのできない心境であることは修養の上でもいいうることだが、思考においても、このデイスインタレストネスこそ最高のタブララサである。

ものを考えようとすれば、ある特定の問題に心を寄せなくてはならないが、関心をもつとたちまち、心の磁場にゆがみが生じる。ものがあるべきように見えないで、あつてほしいと思う形をとるようになる。思考は不自由にならざるを得ない。⁽⁵⁾はげしい関心をもちながら関心の拘束から自由になり、インタレストをもちながらデイスインタレストネスの状態をつくり出さなくてはならない。

思考の はそこにある。

(外山滋比古『知的創造のヒント』による)

問

- (A) 〓 線部(イ)〜(ハ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)
- (B) 〓 線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 〓 線部(1)について。この状態を最も適切に示す語句を、左記各項の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 忘却 2 無心 3 浄化 4 遊離 5 放心

(D) ——— 線部(2)について。なぜ「勤勉な人にものを考えないタイプが多い」のか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 仕事に追われて十分考える時間をとることができないから。
- 2 仕事を離れて気分転換することが難しいから。
- 3 仕事によるストレスが、精神の自由を奪うから。
- 4 仕事で起こる様々な事柄や出来事に常に注意を払っているから。
- 5 仕事の充実感が一種のカタルシス効果を持つから。

(E) ——— 線部(3)について。なぜこのように言えるのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 些細な事柄への関心が思考の拡がりをもたらすから。
- 2 些細な事柄にこそ、妙案の浮ぶヒントが隠されているから。
- 3 些細な事柄への関心が一つの問題に執着することを妨げるから。
- 4 些細な事柄に関心を向けることで日常から離れた思考が可能になるから。
- 5 些細な事柄への関心が、思考の転換や新たな発想へと繋がるから。

(F) ——— 線部(4)について。これはどのようなことを意味しているのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 三上において人は、日常的な義務や役割を一時的に離れざるを得ない。
- 2 三上において人は、気分を一新し、落ち着いてものを考えることができる。
- 3 三上において人は、精神を休養させ、自由を取り戻すことができる。
- 4 三上において人は、日常の人間関係の煩わしさから一時的に離脱することができる。
- 5 三上において人は、日常性の中で「怠ける」時間を得ることができる。

(G) ——— 線部(5)について。この箇所は、その直前の文章とのつながりが緊密ではない。間にどのような接続表現を補えば、緊密なつながりとなるか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 だからこそ
- 2 そればかりでなく
- 3 にもかかわらず
- 4 それならば
- 5 そこで

(H) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 矛盾
- 2 解放
- 3 自由
- 4 逆説
- 5 創造

三 左の文章は『浜松中納言物語』の主人公の中納言が姫君の世話役を吉野に呼び寄せる計画を思案し、実行に移す場面である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に記入すること)

雪はいとど日を経て積もりゆくに、御忌もやうやう果てつ方になりゆくに、さてのみえ絶え籠もり給ふまじければ、「京に出でなむ」とおぼすに、「この姫君をいかで見捨てむ。はかばかしく、いささかものおぼえたる人もなかめり。いみじきころざし思ふとも、雪降り積もりたる山道を、さのみ立ち帰り、え渡るまじう、分け歩かじを、親の御かげにてのみこそは、おのづから過ごし給ひけめ、今は片時も、よも跡とめ給はじと、我もいみじう見捨てがたきに、引き続きて出でむもあしかるべし。おはしどころなど、さるべきやうにてこそ迎へに来め」とおぼすにも、いとうしろめたうおぼつかなきに、おぼしわづらひて、若君預かりたる中將の乳母のおととの、上野の国の守の具にてありけるが、国のことどもなどもし乱れて、つゆの残りもなく、わろびたる世をありわづらひて、さるべく頼もしかるべきよすが求めて、かきうつろひ、名残なく忘れにたるを、思ひ嘆き、泣く泣く十七八ばかりなる娘の、いとをかしげなるを身に添へて、かの中將の乳母のかけに隠れて過ぐるを、「心ばへと言ひ預けたらむに、人おろかなる思ひなどすべくもあらず、あはれなるべき人々を」とおぼし出でて、「あやしうおぼすべけれど、詳しく有様はみづから聞こえむ。必ず若き人具しておはせよ。うしろめたきことは、よに聞こえじ」と、かへすがへす書き給ひて、迎へにつかはしたれば、「あやしう、にはかにいかなることならむ」と思へど、姉のゆかり、この君の御かげを、頼もしきことに思ふ身なれば、いなぶべき方なきに、中將の乳母も、「あしきさまに、見苦しからむこと仰せられむやは。さらば、ただとく参り給へ」と言ふ。

(『浜松中納言物語』による)

(注)

- 1 御忌——姫君の母である吉野の尼君の服喪を指す。
- 2 分け歩かじ——雪の山道を分け入って歩いては来ないだろう、の意。
- 3 おとと——妹を指す。
- 4 具——ここでは妻を意味する。
- 5 人おろかなる思ひ——人を粗略に思う、の意。

問

(A) 線部を漢字一字で記せ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)

(B) 線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 どうしたらあきらめられるだろうか。
 - 2 どうしても見捨てなければならぬ。
 - 3 何とかして見捨ててやろう。
 - 4 どうして見捨てられようか。
 - 5 どうにかあきらめられそうだ。
- (C) 線部(2)はどういう人を指すか。最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 自信にあふれてやや傲慢な感じの人。
 - 2 あまり融通がきかず記憶力がよくない人。
 - 3 しっかりとして物の道理をわきまえた人。
 - 4 常に堂々として全く物怖じをしない人。
 - 5 気軽に何でも引き受けてくれる人。

(D) 線部(3)の意味として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 庇護
- 2 護衛
- 3 報恩
- 4 孝養
- 5 奉仕

(E) 線部(4)の現代語訳として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 とても気にかかり、不安なので。
- 2 たいそう気後れして、恥ずかしいので。
- 3 とても申し訳なく、気の毒なので。
- 4 たいへん満足できて、幸せなので。
- 5 とても許しがたく、腹立たしいので。

(F) 線部(5)はどんな内容のことを指しているか。左記各項の中から最も適當なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 忠実な家臣の補佐
- 2 安全な避難場所
- 3 信頼できる男の愛情
- 4 有力者との血縁関係
- 5 強固な親子の絆きずな

(G) 線部(6)は具体的に誰を指すか。文中から抜き出し、初めの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

(H) 線部(7)の現代語訳として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 まさか外には聞こえますまいよ。
- 2 世の中に広めることはありませんよ。
- 3 なかなか耳には届かないことでしょう。
- 4 絶対にうまく伝わると思いますよ。
- 5 決してお願ひ申し上げますまい。

(I) 線部(8)は誰を指すか。左記各項の中から最も適當なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 中納言
- 2 姫君
- 3 中將の乳母
- 4 上野の国守
- 5 乳母の妹

(J) 線部(9)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 どこにも行けそうもないので。
- 2 ならば方もよくわからないので。
- 3 ことわることもできないので。
- 4 こたえられる方法をさがせないで。
- 5 言いなりにならないようにして。

(K) 線部(イ) (ニ)はそれぞれ誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|-------|---|-------|---|------|
| 1 | 中納言 | 2 | 姫君 | 3 | 中将の乳母 | 4 | 上野の国守 | 5 | 乳母の妹 |
|---|-----|---|----|---|-------|---|-------|---|------|

(L) 線部「めり」の文法上の意味は何か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|--------|---|----|---|----|---|--------|
| 1 | 伝聞 | 2 | 推定(推量) | 3 | 完了 | 4 | 断定 | 5 | 確認(強調) |
|---|----|---|--------|---|----|---|----|---|--------|

〔以下余白〕

